

外部委員からの意見及び取組事例

◎経営協議会

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成24年4月25日	・ 中長期の損益予測と資金管理計画（平成24～平成32年度）	・ 予測パターンが3つあるがグラフ上では2つしか記載されていないことについて意見があった。	・ 今後、予測パターンとグラフとの記載について、ご確認いただき易いよう表記に注意いたします。	H24.11
		・ 複数の予測パターンを提示される場合、大学側からこのパターンを優先するが、委員はどのように考えられるか、との質問にされてはいかがかとの意見があった。	・ 会議当日に、幅広く率直なご意見を忌憚なくいただくため、このようにしていると回答。	H24.4
		・ 各パターンについて、メリット、デメリットを説明いただきたい旨意見があった。	・ 複数パターンを提示して説明する際は、違いを分かりやすく説明するようにいたします。	H24.11
	・ 平成24年度 年度計画について	・ 年度別の計画の推移が分かるようにされたい旨意見があった。	・ 会議当日に、平成25年度計画作成時に工夫したい旨回答。 ・ なお、これを踏まえ、H24.7.25経営協議会における平成23年度実績報告については、中期計画および年度計画に対する実績を対比するようにして報告しました。	H25.3
平成24年6月13日	・ 平成23年度決算について	・ 資料について、セグメント情報にある診療経費と損益計算書の診療経費とを比べると、セグメント情報では減価償却費が含まれて計上されている一方、損益計算書では減価償却費が別に計上されているので、いずれかに整理されたいとの意見があった。	・ 平成24年度決算時よりセグメント情報も減価償却費を別に計上し、大学全体の損益計算書と同じ記載方法に統一します。	H25.6
		・ 財務指標について、病院教職員1人当たりの収益額について、製造業では収益という考えは非常に重要であるが、大学病院としては、収益という言葉が一人歩きすると、教職員や患者に対して誤解を招く恐れがあるので配慮が必要との意見があった。	・ 誤解を招かないようにH24.7月の教授会報告時より、この項目については削除しました。	H24.7
	・ 滋賀医科大学評価指標について	・ わかあゆ夢基金について、現在の経済情勢から寄附金を集めることが困難だと思われること、また、今後、高齢化がますます進んでいくことから、遺言信託も検討されてはいかがかとの提案があった。	・ 数行に確認した結果、全体として遺言信託そのものの実績は少ないが、取り扱っている銀行（三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行）から情報収集を行う予定です。	H24.11

外部委員からの意見及び取組事例

◎経営協議会

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成24年7月25日	・平成24年度財務状況等（第1四半期）について	・資料において、コストアップと記載されているものの、目標対実績ではマイナス標記されていることについて、予算に対する執行額という面ではマイナス、コストアップという面からはプラスが自然であり、今後、資料的により理解しやすくなるよう工夫されたい旨意見があった。	・H24.10.31経営協議会における、上半期の財務状況報告時より、対比表に合わせてプラス・マイナスの表現方法を合わせました。	H24.10
	・給与支給日の変更について	・教職員から出されたローン返済日の変更にかかる意見について、大学として銀行に確認する等、職員に配慮されてはいかかとの意見があり、確認することとなった。	・滋賀銀行、関西アーバン銀行及び京都信用金庫にローン返済日の変更が可能であること、金融機関によっては、変更手数料が必要となることを確認し、平成24年7月31日付けの教職員への「給与支給日の変更（繰り下げ）について」の通知において、その旨を周知しました。	H24.7
平成24年10月31日	・平成24年度財務状況等（上半期）について	・4～9月の水道光熱費の増加要因が単価アップによるものとの説明について、前年度の単価を示されたいとの意見があった。	・平成24年度財務状況等（第3・四半期）で、前年度と今年度の平均単価を表示しました。 (H25.1.30経営協議会で対応)	H25.1
平成24年11月28日	・中長期の損益予測と資金管理計画について	・中長期の損益予測および資金管理計画が平成32年度までという長期間を予測していること、また、その間資金が積み上がっていくことについて。	・これまで、病院再開発の影響もあって、将来的にマイナス状況が続くこと、どの時期にプラス転換するかを示すために長期の予測をしていました。今回の予測では将来的にプラスの状況が続くこと、また、資金の増加額についても不確定要素が多いことから、決算確定後、5年程度の予測をします。	H25.7～11 (6月の決算後)
平成25年1月30日	・平成25年度学内予算編成の基本方針について	・建物および設備といったハード面だけでなく、他大学との機能別の連携や地域との連携といったことについても方針に取り入れてはいかかとの意見があった。	・H25.1.30役員会において議論、検討し、平成25年度における予算編成方針上の特徴【教育・研究の機能強化】の箇所に、大学間連携、地域連携の強化推進のための経費を確保すること、また、【診療の機能強化】の箇所に、地域における救命救急医療の中核医療機関を目指した体制整備を進めるため経費を確保する旨追記、修正しました。 (H25.3.27経営協議会で対応)	H25.1

外部委員からの意見及び取組事例

◎経営協議会

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成25年3月27日	・平成25年度 年度計画について	・中期目標と中期計画に対する各年度の計画（資料2-2）について、平成25年度は空白で過年度は記載のある計画について、完了したのか、他の計画にまとまったのかとの質問があった。	・H25.6.12経営協議会に提出する平成24年度実績報告の資料に記載します。	H25.6
	・平成25年度 学内予算について	・新規事業経費の記載について、新規事業については、戦略的・重点的経費といった特記的な記載して、予算にメリハリをつけたことが分かるようされてはいかか。	・アジア疫学研究センター整備、SPECT更新及びPET-CT設置といった新規事業について、戦略的・重点的経費に個別に計上しました。また、海外から招聘する特任教授や学生等の教育実習を行うため措置した特任助教の人件費についても、大学活性化経費に計上することとしました。 (H25.4.24経営協議会に対応)	H25.3